

## 第26回古代体験まつり



まいぶん〇×クイズ



オープニングイベント



古代の樹木を観察しよう

令和6年10月6日（日）に第26回古代体験まつりを開催しました。

このイベントは、発掘調査の成果などからわかった古代の知恵やワザを体験してもらうイベントで、今年はステージイベントや人気の古代体験など、合計21の体験コーナーを設けました。

また、屋外のステージでは「オープニングイベント（火おこしによる採火式）」や「火おこしレース」、「まいぶん〇×クイズ」が行われたほか、古代体験ひろば周辺では石川県立自然史資料館とのコラボ企画「古代の樹木を観察しよう」等も行われました。

今年も天候に恵まれ、家族連れを中心に会場は終日大いに賑わいました。



R6 古代体験

# 古代体験まつり

今年の体験まつりは、火おこしレースなどのステージイベントをはじめ、毎年人気の「縄文弓矢」や「火おこし」、恒例となった石川県立自然史資料館とのコラボ企画など、21の体験コーナーを設けました。

まつり当日は天候にも恵まれ、最終的に約1,200人もの方が来場し、会場全体が終日賑わっており、各所で順番待ちの行列が発生する盛況ぶりでした。

どのコーナーも大変好評でしたが、「縄文弓矢」や「火おこし」、「まが玉づくり」など、古代のワザに触れる体験がとて人気で、体験者が途切れることなく、時間帯によっては長蛇<sup>ちようだ</sup>の列が発生するほどの人気でした。また、「古代米」や「縄文クッキー」の試食、「農園収穫体験」などの古代の食に関する体験も、事前に案内していた時間になると、すぐに定員に達してしまうほどの人気でした。

さらに、会場内に設置したフォトスポットでは、来場者がはにわと一緒に記念撮影する様子や、古代衣装の顔出しパネルで古代人になりきって記念撮影する姿が多く見られました。

来場者の皆さんからは、「火がおこせて満足」、「石で木が切れてびっくり！」など、体験を楽しんだ感想や、「もっとたくさんの体験をしてみたい」、「普段の講座にも参加してみたい」など、まつりをきっかけとして、古代のワザや技術、センターのイベントにも興味を持ったという声をいただきました。



## R6 古代体験

## 古代体験学習講座 『縄文土器づくり』

令和6年度最初の講座『縄文土器づくり』を5月19日(日)に開催しました。県内出土の本物の縄文土器を見て、そのうちの1つをモデルに選びつくりはじめます。最初は慎重に製作していた参加者も時が進むにつれて真剣な眼差しで粘土を積み上げていました。午前中にはほぼ形が出来上がり、午後からは集中して文様をつけていました。今年は、半截竹管はんさいちっかんによる施文せもんに挑戦する方が多く、見ごたえのあるダイナミックな土器が次々と出来上がっていききました。みなさん、自信の作品が出来上がったようで「自分の土器が一番」と満足気な顔をしていたように見えました。

製作した土器は乾燥ののち、6月9日(日)に野焼きで焼き上げました。ここ数年は天候の良い平日に野焼きしていましたが、多くの方に野焼きの醍醐味だいごみを味わってほしいとの思いから日曜日に実施したところ、天候にも恵まれ、たくさんの方々に見学に来ていただきました。土器の色の変化を興味深くご覧になる方も多く、灼熱しやくねつの炎を前にしてどうにか焼き上げることができました。



体験の様子



体験の様子



野焼きの様子

## R6 古代体験

## 古代体験学習講座 『弥生土器づくり』

6月16日(日)に講座『弥生土器づくり』を行いました。講座のはじめに弥生時代の特徴や県内で出土した弥生土器について説明した後、実際の出土品を参考にして土器づくりをはじめます。縄文土器と同じく粘土ひもの輪積みによって形を作っていきます。参加者のみなさんそれぞれが粘土と格闘かくとうしながら、午後には立派な弥生土器を作り上げていました。その後、櫛くしや板状の工具などを使って文様を描いたら完成です。参加者の方からは、「少し難しかったが楽しかった」「普段できない土器づくりができて新鮮だった」などのお声をいただきました。

製作した土器は乾燥ののち、7月13日(土)に、わらと粘土で全体を覆おおう方法で焼き上げました。



体験の様子



土器の文様入れ



覆い焼きの様子

R6 古代体験

古代体験ミニ講座 『ミニ縄文土器づくり』

7月7日（日）、本格的な夏の訪れを感じさせる暑さの中、午前と午後の2回に分けて「ミニ縄文土器づくり」の講座を行いました。全員で36名の受講者が参加されました。

5月には、「縄文土器づくり」の1日講座を実施しましたが、今回は大きさを考慮し、時間を短縮しての開講です。小学校3年生からと対象者の年齢も引き下げ、気軽に土器づくりの基礎を学んでもらうことを趣旨としました。

しかし、粘土ひもによる成形過程は、縄文時代のものと変わりありません。最初の粘土ひもを上手く作ることに苦労している受講者も多かったようです。慣れてくると徐々に粘土ひもを積み上げていき、最後の文様づくりに取り組みました。

縄文土器は、周囲に施した文様が最大の特徴です。縄を転がして縄目の文様をつける縄文、貝殻で引っ掻いたりしてあとをつける貝殻文、細い竹の棒を押しつけたりして描く竹管文などの技法があります。受講者は、様々な試みを繰り返し、思い思いの文様を描いていました。

作品は乾燥後に焼成し、後日各自への引き渡しとなります。満足のいく作品を仕上げた受講者の皆さんは、その日を待ち遠しく感じながら帰路につきました。



デモンストレーション



製作風景



R6 古代体験

古代体験ミニ講座 『<sup>あい</sup>なま<sup>ぼ</sup>藍の生葉染め』

8月11日（日）、<sup>せみしくれ</sup>蝉時雨の中、総勢46名の参加者が午前と午後に分かれて受講しました。

藍染めの歴史は古く、世界的には、8,000年以上前に西アジアのインド等で使用されていました。日本では、約1,400年前の飛鳥時代に中国から伝わったと言われてしています。

本講座では、藍の葉を摘み取り、それを細かくちぎってから揉み、その絞り出した液で布を染め付けることを行います。単純な内容ですが、藍葉を<sup>しぼ</sup>刻み、水に浸して濃い色を揉み出す作業はなかなか大変です。また、最初の模様づくりは、工夫が必要とされます。小石や割り箸、輪ゴムを使って布を縛り、自分の考えたい模様に近いように知恵を絞らなければいけません。家族で相談する人、独自でシュミレーションを行う人等、様々でした。

そして、液に15分程度漬け込んだ後は水にさらすのですが、その時の、緑色に染まった布が一瞬で藍色に変化する様は圧巻です。受講者達から驚きの声が上がっていました。

外で干し、乾いて仕上がった布を手にした受講者達からは、笑顔がこぼれていました。



①摘んだ藍葉をちぎって刻む



②葉を揉み、色を出す



③洗って干す

## R6 古代体験

## 『人物はにわづくり』

当センターの大人気講座である「人物はにわづくり」を7月20日（土）～7月26日（金）の期間で開催しました。

この講座は小松市の重要文化財矢田野エジリ古墳出土埴輪の製作技法を参考に、人物はにわを製作することで、古墳時代の文化の一端にふれることを目的として毎年開催しているもので、今年は期間中に340名以上の方がはにわを製作しました。

講座に参加した体験者は、職員の指導を受けながら粘土ひもを積み上げ、頭部の形状が、帽子形や冠形など様々な埴輪を製作していました。頭や腕の製作に苦労しつつも、約2時間半かけてそれぞれの作品を仕上げていました。

例年、作品の焼成は古代体験ひろばの登り窯で行ってきましたが、今年は1月に発生した地震で登り窯が破損したため、7月末から8月中旬にかけて電気窯で作品を焼き上げ、8月20日（火）から返却を行いました。



製作風景



完成した人物はにわ



焼きあがった作品

## R6 古代体験

## 『まいぶん・バックヤード・ツアー』

このツアーは、普段は見ることのできない埋蔵文化財センターの裏側を、職員が解説しながら案内するものです。今年は8月21日（水）～8月30日（金）の期間でツアーを実施し、土日を除く延べ8日間で、子どもから大人まで52名が参加しました。

ツアーでは、土器などについて土等を取る洗浄室や土器の破片を分類して接合する整理室、6万箱以上の出土品が保管されている収蔵庫に加え、金属製品や木製品の保存処理を行う施設など、普段は見られない埋蔵文化財センターの裏側を見学した後、ホール展の見学を行いました。

参加者は、普段目にする事のない施設の裏側きょうみしんしんに興味津々で、遺物の整理や保存処理などについて、案内の職員に対して様々な質問を投げかけていました。



職員による実測作業の解説



整理作業を見学する参加者



ホール展の説明を聞く参加者

R6 古代体験

## 親と子の発掘体験教室

「親と子の発掘体験教室」は、小学校4年生～中学3年生とその保護者を対象に、実際に遺跡の発掘調査を体験する教室です。

令和6年度は、8月3日（土）に能美市の「中ノ江遺跡」で17組39名が参加しました。

最初に職員による中ノ江遺跡の説明が行われ、その後に、発掘体験に挑みました。暑い中での作業でしたが、土を掘り進め土器を発見すると、「おー！」「あった！」という感動の声が聞かれました。

午後からは、掘り出した土器を自分達で水洗いしました。その後、屋内にて、県内の遺跡から出土した土器の文様を写し取る拓本を行い、じっくりと土器を観察しました。

最後に本日のまとめのレポート「<sup>まい</sup>埋メモリー」を仕上げました。

炎天下での発掘体験でしたが、参加者からは、「楽しかった」「もっと発掘をしたい」という感想や、多くの質問もあり、積極的な姿勢と歴史への関心の高さがみられました。



中ノ江遺跡の説明



発掘体験



掘り出した土器の洗浄



中ノ江遺跡から出土した遺物の解説



土器の拓本体験

## R6 古代体験

## 出前考古学教室

当センターでは、各種学校や公民館などの依頼に応じ、無料で講師職員を派遣する出前考古学教室を開催しています。

教室では、当センターが保管する石器や土器の実物を提示しながら各時代の講義を行ったり、古代の道具を実際に製作する体験機会を提供したりすることで歴史を身近に感じ取れる実践を心掛けています。

その体験活動では、①黒曜石による試し切り ②滑石を削ってのまが玉づくり ③「もみぎり」と言う木の棒と板を擦る摩擦熱による火おこし ④クラフト粘土を用いて土偶等を製作する「縄文アクセサリーづくり」が主な内容になっています。

小中学校、高等学校、特別支援学校、児童館や公民館等、様々な団体から毎年申込みを頂いています。講義と体験活動の組み合わせの時間配分等、臨機応変に対応していますので、ご活用の際は電話等でご連絡ください。

例年3月1日から電話等で予約受付を開始し、先着順で希望の日時を伺うことになっています。ただし、予約は平日の9時～17時の間での受付になります。

また、出前教室は、土日祝日を除く平日限定ですが、基本的には県内であればどこでも出張可能です。ご遠慮なく申し込みをお願いします。



体験① 黒曜石の試し切り



体験② まが玉づくり



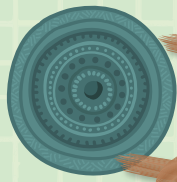
体験③ 火おこし



体験④ 縄文アクセサリーづくり



講義風景



# まいぶん日誌

令和6年  
(2024)

7月～10月



7月

中学生の職場体験

体験工房での火おこし体験



講座「ミニ縄文土器づくり」

人物はにわづくり



人物はにわづくり

8月

親子の発掘体験教室



講座「藍の生葉染め」

まいぶん・バックヤード・ツアー

9月

まいぶん考古学講座 (第2回)



10月

古代体験まつり

マナビフェア in 本多の森 2024

